

昭和47年度森林害虫発生状況

やま ぐち ひろ あき
山 口 博 昭
こ いづみ ちから
小 泉 力

(1973. 6. 9受理)

1. 害虫の発生状況

各関係機関よりの同定依頼、被害報告ならびに当研究室の観察調査などをもとに、昭和47年度における道

内の森林害虫発生状況を整理要約してみると、表-1のとおりである。

表-1 47年度森林害虫発生概要

害虫名	樹種	発生地(面積)	備考
トドマツノハダニ	トドマツ アカエゾマツ	士別署(35 ha), 佐呂間署(9 ha), 函館(6 ha)(民林) 他各地の苗畑	いずれも造林地。
ヒメカサアブラ	トドマツ (アカエゾマツ)	東瀬棚署(10 ha)	その他各地の苗畑で被害がみられるが、激害木は少ない。
キタマツカサアブラ	アカエゾマツ	網走署	前年にひき続き発生しているとみられる。
エゾマツカサアブラ	エゾマツ		各地のエゾマツ幼齢造林地。
カサアブラムシ類	カラマツ グイマツ		道央・道東地方にかなりの被害散見。
オオアブラムシ類	トドマツ アカエゾマツ エゾマツ カラマツ トウヒ	道内一円の幼齢造林地(12,000 ha)	トドマツオオアブラの被害が最もいちじるしいが、道央、道東にかけてアカエゾマツの被害(約2,000 ha)も多い。防除面積約8,000 ha。
トドマツノタマバエ	トドマツ		報告なし。
スギタマバエ	スギ		道南スギ造林地に散見。
マツバノタマバエ	アカマツ	七飯, 亀田 函館林務署	街路樹約200本他(45年頃より発生のもよう。)
クリタマバチ	クリ	壮瞥(14 ha), 知内(民林)	全般に被害は少なくなっているようだが、松前, 七飯, 森など道南で昨年にひき続き発生しているとみられる。
カラマツハラアカハバチ	カラマツ グイマツ		報告なし。
マツノミドリハバチ	カラマツ	広尾(10 ha)(民林)	
マツノキハバチ(?)	ストロブマツ	北見署	(幼虫)
ハバチの1種	アカエゾマツ	阿寒署	種名未確認, 前年にひき続き発生しているものと思われる。
マツツマアカシンムシ	クロマツ	江差, 桧山, 東瀬棚, 厚賀, 静内, 余市署	報告はないが, 各署の飛砂防備保安林にひき続き発生しているとみられる。
マツノシンマダラメイガ(?)	ストロブマツ	門別(140 ha) 平取(22 ha)(民林)	種名未確認, マツトビマダラシンムシではなからうか。
マツヒメハマキ	ストロブマツ 他マツ類	苫小牧署	野幌や支場構内のマツ類にもかなりの被害がみられる。

害虫名	樹種	発生地(面積)	備考
コスジオビハマキ トドマツアミメハマキ マツアトキハマキ タテスジハマキ クロタテスジハマキ その他ハマキガ類	トドマツ	札幌(108 ha), 岩見沢(670 ha), 達布(60 ha), 今金署, 当別(110 ha), 栗沢(8 ha)(民林)	人工林, 一部天然林, 報告のあった発生面積は左記の956 haだが, その他の地でも継続発生しているとおもわれる。ただし旭川, 芦別(道有林)など道央地区ではウイルス病の発生により, 個体数が減少している。札幌署 108 ha, 当別 60 ha, 栗沢 8 ha 防除。
カラマツヒメハマキ	カラマツ	室蘭署	洞爺湖周辺にかなりの被害観察。
カラマツ イトヒキハマキ	カラマツ	名寄(250 ha)(民林)	道央地方で3年間継続大発生。
テングハマキ	カラマツ		報告なし。
ウスアミメハマキ (他)	カシワ ナ	帯広(200 ha)(民林)	耕地防風林に大発生。
カラマツツツミノガ	カラマツ	森(25 ha)(民林)	札幌周辺でやや被害目だつ。その他各地で軽微な発生。
マイマイガ	カラマツ	富良野(6 ha), 美瑛(20 ha), 沼田(民林)	道央の一部に前年から発生していたとみられる。
ツガカレハ	トドマツ カラマツ マツ類		報告なし。
ブナアオシャチホコ			道南地方の2年間にわたる大発生も終そくしたもよう。
モンロクシャチホコ	シラカソ バサ ク	亀田(20本)(民林)	
クロスジキノカワガ	ヤナギ	遠別(3 ha)(民林)	
キマダラコウモリ	スギ グルチノ ザ ハンノキ		報告なし。
トドマツ ミキモグリガ	トドマツ		各地で散見。
カラマツ ミキモグリガ	カラマツ	標茶署, 中標津, 滝ノ上, 留辺蘂(民林)	報告はないが, 道東のカラマツ造林地に多くみられる。
スカシバガの1種	サクラ	夕張, 札幌, 旭川(公園樹)	報告はないが, 継続発生。
オオスジコガネ スジコガネ	トドマツ カラマツ マツ類		報告なし。
ハンノキハムシ	コバノヤマ ハンノキ他	長万部, 森(56 ha) 鹿部(30 ha)(民林)	森 40 ha 防除。
ドロノキハムシ	ドロノ キ	厚賀署(7 ha) 長万部(7 ha) 苫小牧(3 ha)(民林)	長万部 7 ha, 苫小牧 3 ha 防除。
オオトラカミキリ	トドマツ		報告はないが, 森, 苫小牧地方ではわずかながら被害発生が続いているとみられる。
カラマツ ヤツバキクイ (マツノオオキクイ)	カラマツ	標茶署(66 ha, 約200本) 森(26 ha), 鹿部(30 ha), 斜里(1 ha), 札幌(民林)	標茶, 間伐跡地の被害, 伐倒防除。森 530 m ³ , 鹿部 450 m ³ 札幌 3 m ³ 防除。いずれもスミパーク E 乳剤(20倍液)。
トドマツクイ	ドトマツ	上芦別署(31 ha)	
ヤツバキクイ その他の穿孔虫	エゾマツ トドマツ		全道一円の天然林。

2. 主な害虫の発生動向と対策

(1) トドマツノハダニ

苗畑ではほぼ恒常的に本種の被害が発生、そのため定期的に薬剤散布を実施して被害の発生を予防している。これに対し、造林地における被害は、寒害など気象害と誤認されたり、見逃がされることが多く、ほとんど何らの防除対策も構じられていない。本年度は春から夏にかけて高温乾燥の日が続いたためもあり、各地で本種の被害が目立ったようで、造林地における被害も報告されている。佐呂間ではアカエゾマツの幼齢造林地(昭和43~46年植)が激害をうけ、針葉が赤褐変し、落葉する林木も多かったという。

(2) 幼齢造林地のオオアブラムシ類

道東、道北の一部を除く全道各地のトドマツ幼齢造林地では、トドマツオオアブラの発生が恒常化し、毎年かなりの面積にわたって薬剤防除が実施されているにもかかわらず、発生面積は一向に減少していかない傾向にある。さらに近年は道央、道東地方において、アカエゾマツ造林地でのエゾマツオオアブラを主体としたアブラムシの被害が増大してきている。アエゾマツは一般に気象条件のきびしいところに造林されている関係もあり、その影響と重なって造林成績を悪化させる原因にもなっているようなので、これらの造林地では、一度トドマツオオアブラに対すると同様に薬剤防除を実施してみて、その後の生育がどうなるか比較検討してみる必要があるように思える。

(3) マツバノタマバエ

法定害虫にも指定され、九州、本州方面のマツ林に大害を与えてきた本種が、次第に北進を続け、昭和45年頃に北海道にも侵入、その被害が函館近辺でみられるようになった。まだ発生地は局限されているようであるが、次第にその分布は拡大されていくのではなからうか。

(4) マツのシンクイムシ

マツ類の新梢内に穿入、その髓部を食害するマツのシンクイムシとしては、本道ではマツツマアカシムシが最もふつうで、これまで海岸砂防林でかなり被害をうけてきているが、本年度、日高地方のストロブマツ林に広範囲にわたって(合計162ha)、このグループに属するとみられる新梢の被害が発生した。マツノシンマダラメイガとして報告されてきているが、種類は確認されていない。被害状態などから判断すると、マツトビマダラシムシのように思える。木を枯らすようなことはないが、被害が何年か継続すると、木が2又、3又さらにはほうき状になってしまう。今後の発生動向に注意する必要がある。

(5) トドマツのハマキガ類

昭和40年頃より大発生しはじめたコスジオビハマキを中心とするトドマツのハマキガ類は、大発生の中心地とみられた旭川、芦別地方ではウィルス病の発生により密度が急減、ようやく大発生も終熄の傾向をみ

せている。しかしその周辺地区ではなお密度が高く、札幌近辺の激害林では、合計176haにわたって薬剤防除が行なわれた。なお、天敵微生物を用いた害虫防除としては本道でははじめての試みであったが、バクテリアの一種バチルス・チューリンゲンシスを用いた航空機による防除試験が当別で実施されている。

(6) カラマツイトヒキハマキ

昭和45年120ha(上富良野、士別、美瑛)、46年427ha(名寄、旭川、東川)、47年250ha(名寄)と、場所は少しづつずれるが、3年間にわたって大発生が続いている。同一林分で激害が続けば直接枯死するものも生じるし、また樹勢の衰弱が二次的にキクイムシの被害を誘発するおそれがあるので、その点注意が必要である。

(7) マイマイガ

局部的であるがマイマイガの大発生がみられた。昭和37年に道南の鹿部(150ha)に発生して以来のことである。しかし昭和28、29年の北見地方約11万ha)、36、37年の歌志内、赤平など道央地方(数万ha)における大発生にくらべると、はるかに規模が小さい。卵塊調査の結果では、48年度もひき続き発生するとみられる。

(8) ブナアオシャチホコ

昭和45年に江差、木古内、松山地方(25、450ha)、46年に黒松内地方(2,239ha)と2年間にわたっての大発生も、本年度は終熄したようである。

(9) オオスジコガネ、スジコガネ

昭和39年頃から、苫小牧、恵庭、白老地方を中心に道央一帯の幼齢造林地に発生、一時は数千haに達した本種の被害も、昭和43年頃から減少しはじめ、本年度は全く被害報告をうけなかった。風倒跡地、皆伐跡地等の開放地が、その後造林木が成林するにしたがい、幼虫の生息場所として不適化してきたことと関係があるように思える。

(10) ハンノキハムシ

昭和40年頃より道南地方に本種が継続発生、はじめ木古内地方を中心としていたが、その後、鹿部、森、長万部と分布が北に広がってきている。ハムシ類がこのように長期間大発生を続けているのも珍しい現象といえよう。

(11) カラマツヤツバキクイ(マツノオオキクイ)

道南地方の45年夏の風倒跡地で、風倒木を温床に密度が上昇したが、まだ立木被害はほとんど発生していないようである。標茶では間伐跡地で、土場周辺を中心に立木被害が発生した。被害量はごくわずかであったが、間伐地がふえてきているので、今後その他の地でもこのような例がみられるようになるのではなからうか。いずれにしてもこの1~2年は、間伐跡地での発生推移に対して注意深い観察を続けていくことが、最もだいじな問題と思われる。

(林試北海道支場)